4月定例活動

2010年総会＆竹林管理

当日は晴天に恵まれ、午前10時からタケノコの生えている竹林の中で、数ヶ所に分かれて竹の伐採に取り組んだほか、ジャガイモ畑の手入れを行った。

午後2時半頃無事作業を終了して、引き続き総会（出席者20名）を行い、原案通り決定した。会長以下、役員選出については全員留任となったが、その中で、運営委員の選任の話題が出された。検討の結果、特に運営委員を決めるのではなく、より多くの人が運営委員会に出席し、自由に論議することとなった。また、名簿作成の件については、プライバシー保護のため希望があれば連絡先等を削除した上で、配布できることとした。

なお、竹林伐採の方法について感じたことを言えば、伐採場所に比べ参加人数が多いので、ケガ防止のため各自それぞれ伐採するのではなく、2～3名位のグループに分け、なお場所を区分して行った方が良いと思う。伐採時期についても検討してはどうか。例えば、竹細工に使用する竹は冬至の頃が一番良いと聞いている。少なくとも12月から2月頃まで。また、林内で竹の侵入を防止（竹を根絶）する場合、竹林として管理する場合など、それぞれの適期に実施した方が効率がよいと思う。いずれにしても「安全第一」で「楽しく」参加していきたい。　（村田　正）

▲山根口での竹林整備のようす

主な決議内容

【役員】（全員留任）
○会長／大館 学　○副会長兼運営委員長／真弓 浩二
○書記／近藤 眞史　○会計／村田 英二
○会計監査／森 勝　○運営副委員長／永田 修二
○事務局／伊藤 百寿人、中島 巳治男

【運営委員会】運営委員会には、会員全員が自主的に出席し、積極的にくらぶの運営にたずさわること。

【年間活動予定】次ページのとおり。

シリーズ『森の住人たち』㉔

～イセノナミマイマイ～

―東海地方平野部の大型カタツムリ―

イセノナミマイマイ　　オナジマイマイ科
体長　殻高22mm　殻径39 mm
分布　西三河以西、三重、和歌山北西部、岐阜、滋賀、京都などに点在して分布
食餌　落ち葉、苔、キノコ類、枯葉などに付着した菌類など、また貝殻を形成するために必要なカルシウムを含んだものなど

▲休眠中のイセノナミマイマイ

相生山緑地の外周を歩くと、畑の端にカタツムリの殻がいくつも散らばっていることに気づく。死貝である。日々緑が濃さを増していく季節は、その殻の白さがまぶしい季節でもある。

山根口から緑地に入る。案内板を通り過ぎるとき、案内板の杭に、じっとしているイセノナミマイマイに気づいた。名古屋周辺でカタツムリといえば、この種である。夜行性のため、日中は休眠中である。

♪「デンデン　ムシムシ　カタツムリ
つのだせ　やりだせ　あたまだせ～」

カタツムリを見つけると、ついロずさんでしまうのは、その姿のかわいさゆえだろう。

歌詞の、「デンデンムシ」の語源は、「でんでん」つまり、カタツムリに向かって「出ろ、出ろ」という言葉がなまったものではないかといわれている。これは民俗学者の柳田国男の説である。その名を高校生の時に知り、著書を何冊か読んでいる作家に対して恐れ多いことだが、私の考察は異なる。カタツムリが角を出さないことに対して、「出ん、出ん」という言葉がなまったのではないかと推察する。また、カタ（潟）にいるツブリ（螺）なので、カタツムリといわれる。「潟」は陸の意味であり、「螺」は巻貝を意味する。つまり、陸に住む巻貝という説もある。

カタツムリは、その歩みが示すように他の生きものと比較して非常に移動性に乏しい。つまり環境変化の影響を受けやすいといえる。カタツムリの多数の種が絶滅、もしくは絶滅の危機にさらされているのが現状である。かわいさのみならず、気になる存在である。

（文責　自然案内人　近藤 記巳子）